

[異常時通報連絡の公表文（様式 1-1）]

コンテナ式ホールボディカウンタの発電機用燃料タンクからの油の漏えいについて

27. 7. 10
原子力安全対策推進監
(内線 2352)

[異常の区分]

国への法律に基づく報告対象事象		有 ・ 無 [評価レベル -]
県の公表区分		A ・ B ・ C
外部への放射能の放出・漏えい		有 ・ 無 [漏えい量 -]
異常の概要	発生日時	27年6月23日16時50分
	発生場所	1号・2号・3号・ 共用設備
		管理区域内 ・ 管理区域外
	種類	・ 設備の故障、異常 ・ 地震、人身事故、その他

[異常の内容]

6月23日(火)17時26分、四国電力(株)から、伊方発電所の異常に係る通報連絡がありました。その概要は、次のとおりです。

- 1 6月23日(火)16時50分頃、発電所構内のパノラマ館付近において、コンテナ式ホールボディカウンタの発電機用燃料タンクの下部から油が漏えいしていることを確認した。
- 2 漏えいした油は発電機周辺にとどまっており、排水溝への流出はない。
- 3 詳細については、今後調査する。
- 4 本事象によるプラントへの影響および環境への影響はない。

[その後の状況等]

6月26日(金)18時11分、四国電力(株)から、その後の状況等について、次のとおり連絡がありました。

- 1 漏えいした油は軽油約7リットルであり、ウエスで拭き取り、燃料タンク内の軽油についても抜き取りを6月23日(火)に実施した。
- 2 調査の結果、燃料タンクの側面下部溶接部から軽油が漏えいしたことを確認した。
- 3 今後、漏えいの原因について詳細に調査する。

県では、原子力センターの職員を伊方発電所に派遣し、その後の状況等を確認しております。

(伊方発電所及び周辺の状況)

[事故発生時の状況]

原子炉の運転状況	1号機	運転中(出力 %)	停止中
	2号機	運転中(出力 %)	停止中
	3号機	運転中(出力 %)	停止中
発電所の排気筒・放水口モニタ値の状況		通常値 ・ 異常値	
周辺環境放射線の状況		通常値 ・ 異常値	

(参考)

1 国への法律に基づく報告対象事象

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律に基づき、国（原子力規制委員会原子力規制庁等）に対し、一定レベル以上の事故・故障等を報告することが義務付けられている。

国への法律に基づく報告対象事象に該当すれば、国際原子力機関が定めた評価尺度に基づき、7から評価対象外までの9段階の評価レベルが示されるので、異常の程度を判断する目安となる。評価対象外以下のものについては、安全に関係しない事象とされている。

2 県の公表区分

区分	内 容
A	○安全協定書第11条第2項第1号から第10号までに掲げる事態 （放射能の放出、原子炉の停止、出力抑制を伴う事故・故障、国への報告対象事象 等） ○社会的影響が大きくなるおそれがあると認められる事態 （大きな地震の発生、救急車の出動要請、異常な音の発生 等） ○その他特に重要と認められる事態
B	○管理区域内の設備の異常 ○発電所の運転・管理に関する重要な計器の機能低下、指示値の有意な変化 ○原子炉施設保安規定の運転上の制限が一時的に満足されないとき ○その他重要と認められる事態
C	○区分A，B以外の事項

3 管理区域内・管理区域外

その場所に立ち入る人の被ばく管理等を適切に実施するため、一定レベル（3月間に1.3ミリシーベルト）を超える被ばくの可能性がある区域を法律で管理区域として定めている。原子炉格納容器内や核燃料、使用済燃料の貯蔵場所、放射能を含む一次冷却水の流れている系統の範囲、液体、気体、固体状の放射性廃棄物を貯蔵、処理廃棄する場所等が管理区域に該当する。

異常発生場所が管理区域の内か外かによって、異常の程度を判断する目安となる。

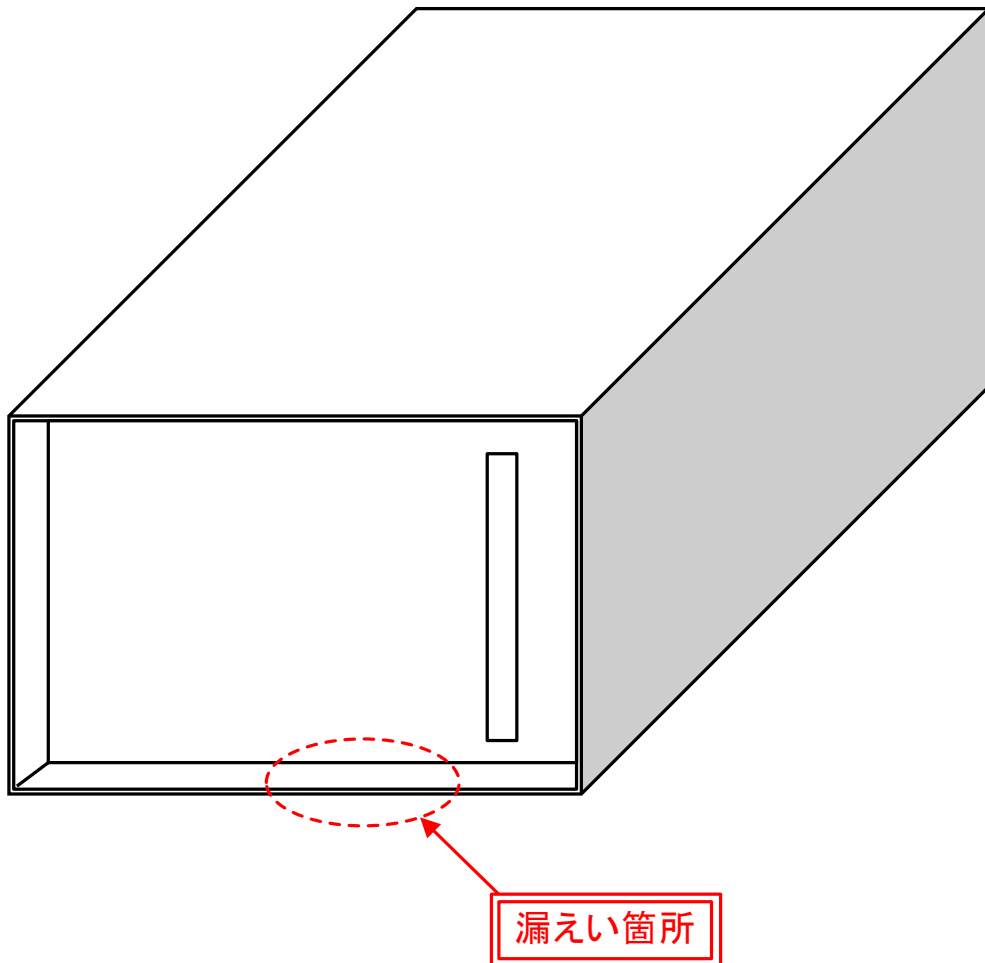
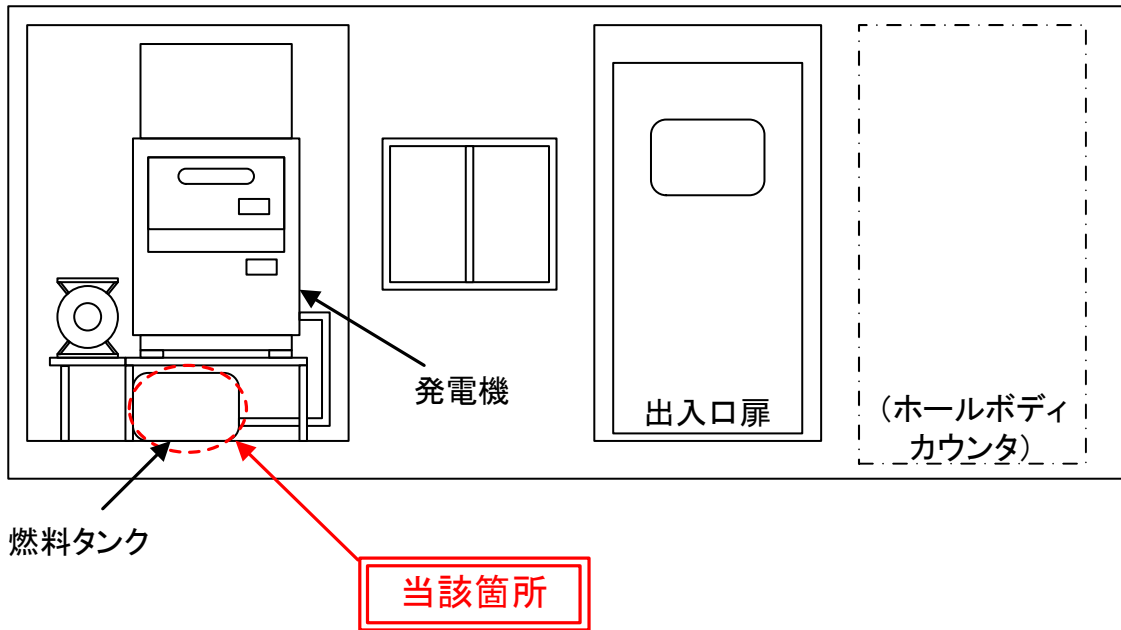
伊方発電所情報 (お知らせ)

発信年月日	平成 27年 6月 23日 (火) 17時 26分	
発信者	伊方発電所 平田	
当該機	号機 (定格出力)	1号機(566MW)・2号機(566MW)・3号機(890MW)
	発生時 状況	1. 1号機 出力 MWにて (通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中) 2. 定期検査中 (1号機:第28回 2号機:第23回 3号機:第13回)
発生状況 概要		設備トラブル ・ 人身事故 ・ 地震 ・ その他
		1. 発生日時: 6月23日 16時50分頃 2. 場 所: 屋外8.4m パノラマ館付近 (管理区域外) 3. 状 況: 屋外8.4mパノラマ館付近において、本日16時50分頃、保管中のコンテナ式ホールボディカウンタの発電機燃料タンク下部より燃料油らしきものが漏えいしていることを放射線・化学管理課員が確認しました。 現在、漏えいした燃料油らしきものは、当該発電機周辺にとどまっており、排水溝への流出はありません。 今後、詳細を調査することとします。 なお、本事象によるプラントへの影響および環境への影響はありません。
運転状況		1号機:通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中 2号機:通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中 3号機:通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中
備考		

伊方発電所情報 (お知らせ、第2報)

発信年月日	平成 27年 6月 26日 (金) 18時 11分
発信者	伊方発電所 大政
当該機	号機 (定格出力)
	発生時 状況
発生状況 概要	1号機(566MW)・2号機(566MW)・3号機(890MW)
	1. 1号機 出力 MWにて(通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中) 2. 定期検査中(1号機:第28回 2号機:第23回 3号機:第13回)
発生状況 概要	設備トラブル・人身事故・地震・その他
	<p>1. 発生日時: 6月23日 16時50分頃</p> <p>2. 場 所: 屋外8.4m パノラマ館付近(管理区域外)</p> <p>3. 状 況:</p> <p>屋外8.4mパノラマ館付近において、6月23日16時50分頃、保管中のコンテナ式ホールボディカウンタの発電機燃料タンク下部より燃料油らしきものが漏えいしていることを放射線・化学管理課員が確認しました。</p> <p>現在、漏えいした燃料油らしきものは、当該発電機周辺にとどまっております。排水溝への流出はありません。</p> <p>今後、詳細を調査することとします。</p> <p>なお、本事象によるプラントへの影響および環境への影響はありません。</p> <p style="text-align: right;">【第1報にてお知らせ済み】</p> <p>漏えいした燃料油らしきものは軽油で、漏えい量は約7リットルであり、これらについては6月23日にウェスにて拭き取りをし、あわせて燃料タンク内の軽油についても抜き取りを実施しました。</p> <p>その後、当該燃料タンクを取り外して調査した結果、側面の下部溶接部より軽油が漏えいしていたことを確認しました。</p> <p>なお、その他の異常は認められませんでした。</p> <p>今後、漏えいの原因について詳細に調査します。</p>
運転状況	1号機:通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中 2号機:通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中 3号機:通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中
備考	

伊方発電所 コンテナ式ホールボディカウンタ概略図



燃料タンク

現場の状況



燃料タンク
(軽油:195リットル)



(上記写真の裏側)



用語の解説

○コンテナ式ホールボディカウンタ

放射性物質による汚染の有無について全身を測定できる、車載運搬が可能な測定装置。

周辺環境放射線調査結果

(県環境放射線テレメータ装置により確認)

平成27年6月23日 (火)

(単位：ナノグレイ/時)

測定局	時刻	測定値 (シンチレーション検出器)					平常の変動幅の最大値	
		16:30	16:40	16:50	17:00	17:10	降雨時	降雨時以外
愛媛県	モニタリングステーション (九町越)	16	16	16	16	16	46	19
	モニタリングポスト伊方越	17	17	16	17	17	41	22
	モニタリングポスト九町	23	23	22	23	22	45	27
	モニタリングポスト湊浦	16	16	15	15	16	34	20
	モニタリングポスト川永田	21	21	20	20	20	45	28
	モニタリングポスト豊之浦	24	25	25	24	24	-	-
	モニタリングポスト加周	27	26	25	26	26	-	-
	モニタリングポスト大成	15	15	15	15	15	-	-
四国電力(株)	モニタリングステーション	16	16	16	16	16	40	18
	モニタリングポストNo. 1	14	15	14	15	14	42	17
	モニタリングポストNo. 2	13	13	13	13	14	41	15
	モニタリングポストNo. 3	13	12	12	12	12	42	15
	モニタリングポストNo. 4	13	13	13	13	13	41	16

(注) 伊方発電所付近に設置しているモニタリングポスト等について記載

○ 降雨の状況：(有)・無

○ 伊方発電所の排気筒モニタ等にも異常なかった。

(参考)

1 環境放射線の測定値は、降雨等の気象要因や自然条件の変化等により変動するので、原子力安全委員会の環境放射線モニタリング指針に基づき、測定値を「平常の変動幅」と比較して評価しています。

「平常の変動幅」は、過去2年間(平成24、25年度)の測定値を統計処理した幅(平均値±標準偏差の3倍)としており、一般に、測定値が「平常の変動幅」の最大値以下であれば、問題のない測定値と判断されます。

2 環境放射線は線量(グレイ)で表されますが、一般的に、これに0.8を乗じて、人の被ばくの程度を表す線量(シーベルト)に換算しています。

例えば、線量率約20ナノグレイ/時の地点では、1年間に約0.14ミリシーベルト(ミリはナノの100万倍を表す)の自然放射線を受けることとなりますが、これは、胃のX線検診を1回受けた場合の4分の1程度の量です。

(放射線量の例)

